

## 目次

### 第1部 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの概要

1. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの成り立ち
2. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの運営機構
3. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの構成メンバー
4. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの建物の平面図

### 第2部 大学院修士課程のカリキュラムと学習指針（平成31(2019)年度以降入学生）

1. 大学院の教育目標と学生募集について
2. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの概要
3. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの講義科目概要
4. 中間発表会について
5. 博士後期課程について

### 第3部 大学院博士前期課程のカリキュラムと学習指針（平成30年度以前入学生）

1. 平成30年度以前入学生

### 第4部 就職・資格／免許・学生生活について

1. 進路の選択 ―就職してどんな仕事をするか―
2. 卒業生就職先
3. 就職に関するコースの方針
4. 各種資格・免許について
5. 大学評価・学位授与機構について
6. 学生生活に関するQ & A

### 付録 平成31年度 授業時間割表（前学期・後学期）

平成31年3月29日発行

編集：佐賀大学理工学部都市工学科（担当：末次・押川）

表紙デザイン：溝上智奈美

第1部 都市基盤工学コース・  
建築環境デザインコースの概要

## 1. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの成り立ち

### 土木工学科と建設工学科の創設

都市工学科は、1970年に設立した土木工学科が源です。設立12年後の1982年には土木工学科を拡充することを目的に、兄弟学科建設工学科を創設しました。2学科で入学定員80名の土木系学科は、学生数だけで見れば九州大学と肩を並べる学科になりました。

さらに、地域の課題である軟弱地盤対策と総合的な水管理に関する研究を強化するために、1991年には専任の研究者3名を擁する低平地防災研究センターが設置されました。学科が研究センターの構築に積極的に協力して連携を保つことは非常に珍しく、地域・国際に密着した国内外における唯一の同センターを拠点とし、研究者・技術者・行政・企業との連携を強めて研究・技術的課題を解決することにより、大きな貢献を果たしてきました。他方、同じ課題を抱える諸外国の研究者との連携を図り、国際的な教育研究も展開してきました。両学科・センター双方において外国から著名な研究者を迎え、研究のみならず、教育にも参加いただくことで、学生が多くの外国人の先生方から教育を受ける機会も増やせました。近年では大学院を中心に外国人学生が急増し、両学科は一気に国際色を強めていきました。

### 都市工学科の成立

佐賀大学土木工学科・建設工学科は、創設以来、社会基盤づくりを担う技術者を養成する教育機関として、また地域課題を中心に様々な技術課題を世界的レベルで研究する機関として多くの実績を上げてきました。水理・構造・土質・都市計画の4分野でスタートした教育研究分野に、衛生工学・景観設計・社会システム・維持管理・地域設計などの分野を取り込み、土木工学の量的・質的向上を図ってきました。

そして1997年、理工学部全体の改編が行われて、土木工学科・建設工学科の両学科を統合して「都市工学科」が誕生しました。また、2001年には低平地防災研究センターも研究者5名の低平地研究センターに拡充改組され、2010年にはさらに低平地沿岸海域研究センターとして研究者8名からなる拡充改組が続けられ、機能が強化されてきました。

### 都市工学科の展開

建設工学科や都市工学科では、建築デザイン系教員を招いてきましたが、水辺景観・地域景観・都市景観等を研究教育の対象としたもので、あくまでも土木工学が主体の都市工学科の分野拡充を狙ったものでした。学生からは建築デザイン系の教育システムを充実し、建築を学べるようにして欲しいという要求が強く出ていましたが、教員定員に余裕がなくその要求に応えることができませんでした。

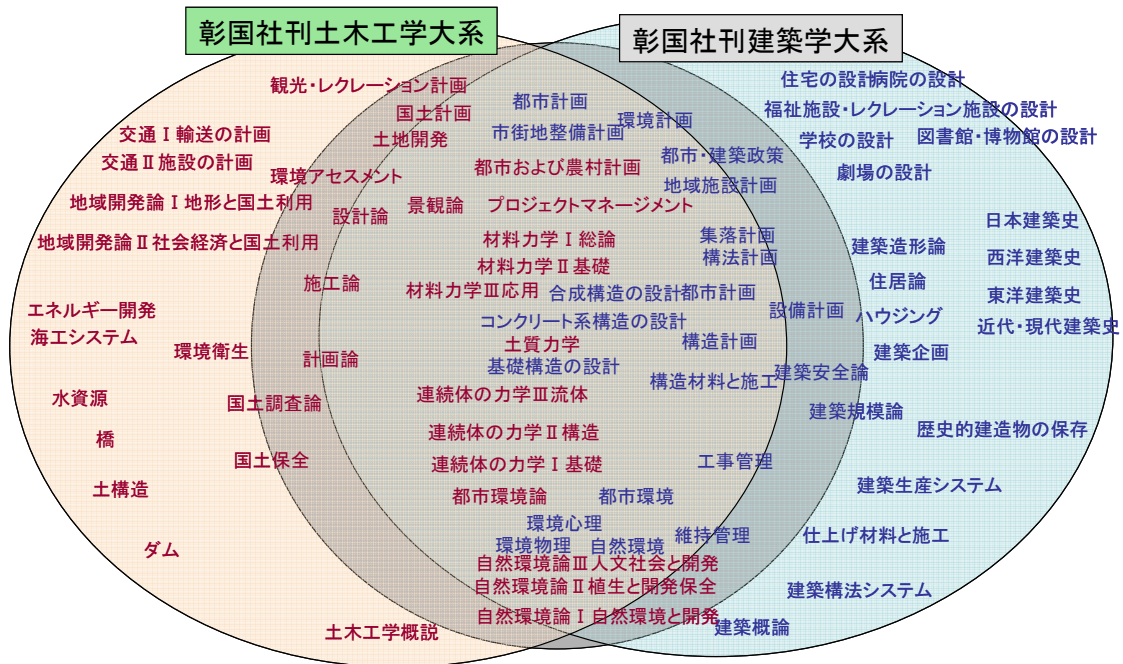
また、都市工学科が主たる教育研究分野としている土木工学は、大きな転換点を迎えています。高度経済成長から、安定経済へ移行するに伴い、道路・港湾・ダム・上下水道等の社会基盤形成に回すことのできる予算が十分に確保できなくなってきました。社会基盤は国の骨格・動脈・静脈の役割を果たしており、その重要性はこれからも変わりませんが、量的には縮小せざるを得ない状況にあります。

このような状況を受けて、都市工学科では2年間にわたる討議を経て、土木系を維持しつつ、建築・都市デザイン系を充実させることとなりました。学生及び地域の建築団体からの強い要望に応えることにしたのです。2006年度(平成18年度)の入学生から「都市環境基盤コース」と「建築・都市デザインコース」二つのコース制を採用しました。

2019年度(平成31年度)に理工学部は1学科(理工学科)12コース制の教育組織に改組されました。これにより都市工学科はそれぞれ「都市基盤工学コース」および「建築環境デザインコース」に名称を変更して改組され、新たな教育研究体制をスタートさせました。

ここで、土木と建築がどの様に違い、どの様に似ているかを考えておきましょう。次のページの図は、土木と建築の分野の専門書を多く出版している彰国社が発刊した土木工学大系と建築学大系のタイトルを図にしたものです。力学・構造・材料・都市・自然環境・維持管理等、多くの共通部分を含んでいることが分かります。

# 土木と建築の違いと類似性



土木工学を主体とした「都市基盤工学コース」は土木工学大系の分野を、建築・デザインに主力をおいた「建築環境デザインコース」は建築学大系の分野が主たる対象とと考えてください。真ん中の重なった部分はコース共通としました。

## 2. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの運営機構

平成 31 (2019) 年度の都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの運営機構のうち、諸君に関係のあるものは次の通りです。

都市工学部門長： 山西 博幸 教授  
 都市基盤工学コース主任： 山西 博幸 教授  
 建築環境デザインコース主任： 帯屋 洋之 教授

部門長は両コースにまたがる事務を行います。コース主任はそれぞれのコース内の種々の重要な事務を行います。原則として 2 年間 (4 月～翌々年に年 3 月) で交代します。

就職担当教員： 三島 伸雄 教授  
 両コースの学生の就職に関して指導・助言を行います。原則として 2 年間で交代します。

学生委員： 伊藤 幸広 教授  
 学生生活に関する諸問題について、指導・助言を行います。原則として 2 年間で交代します。

教務委員： 猪八重 拓郎 准教授、宮原 真美子 准教授  
 学習ならびに教務に関して、指導、助言を行います。原則として 2 年間で交代します。

### 3. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの構成メンバー

分野	構 成 員	電子メールアドレス
建設構造学	教授 井嶋 克志	ijimak☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 伊藤 幸広 (学生委員)	itoy☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 帯屋 洋之 (建築環境デザインコース長)	obiyah☆cc.saga-u.ac.jp
	助教 三田 勝也	mita☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 山内 直利	yamauchi☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 川崎 徳明	kawasakn☆cc.saga-u.ac.jp
建設地盤工学	教授 柴 錦春	chai☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 日野 剛徳	hinoilt☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 坂井 晃	sakaia☆cc.saga-u.ac.jp
	講師 根上 武仁	negamit☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 齋藤 昭則	saitoa☆cc.saga-u.ac.jp
環境システム工学	教授 大串 浩一郎	ohgushik☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 山西 博幸 (都市基盤工学コース長)	yamanisi☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 押川 英夫	oshikawa☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 Narumol Vongthanasunthorn	si4430☆cc.saga-u.ac.jp
	講師 三島 悠一郎	sk9822☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 佐々木 広光	sasakih☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 野口 剛志	nogut☆cc.saga-u.ac.jp
都市・社会システム学	准教授 李 海峰	haifeng☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 猪八重 拓郎 (教務委員)	d3236☆cc.saga-u.ac.jp
建築デザイン学	教授 三島 伸雄 (就職担当)	mishiman☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 後藤 隆太郎	rgoto☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 平瀬 有人	yujiinh☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 宮原 真美子 (教務委員)	myhr☆cc.saga-u.ac.jp
	助教 渕上 貴由樹	fuchi☆cc.saga-u.ac.jp
建築環境工学	教授 小島 昌一	shokjm☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 中大窪 千晶	knakaohk☆cc.saga-u.ac.jp
第一事務室 (都市 図書室)	事務員 宮沢 麻美	miyazaa☆cc.saga-u.ac.jp
第二事務室 (都市 北棟)	事務員 中村 康子	nakamuya☆cc.saga-u.ac.jp

☆を@に書き換えてください。

#### 4. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの平面図

「安全の手引」のデータから

## 第2部 大学院修士課程の カリキュラムと学習指針

(平成31(2019)年度以降入学生)

## 1. 大学院の教育目標と学生募集について

学部学生が更に勉学する場として、佐賀大学にはそれぞれ標準修業年限2年および3年の修士課程と博士後期課程が設けられています。理工学研究科理工学専攻都市基盤工学コースおよび建築環境デザインコースの教育課程は、

- (A) 都市工学を専攻し、将来、専門技術者をを目指す学生に共通して有益な、高いレベルの素養を身につけさせる。
- (B) 社会基盤整備のための専門技術者として必要な、現象の正確な把握と的確な工学的判断ができるための高度な知識を修得させ、その運用能力を育成する。
- (C) 建築およびまちづくりのための専門技術者・デザイナーとして必要な、独創的かつ合理的な発想力と表現力を鍛錬し、それを支える高度な知識を身につけさせる。

という教育目標を掲げています。

### ■修士課程の学生募集概要

都市基盤工学コースおよび建築環境デザインコースの入学者選抜は、推薦選抜試験、AO 選抜試験と一般選抜試験の3種類で行います。一般選抜試験は両コース共通で英語 (TOEIC のスコア) ・数学 (微積分・微分方程式・線形代数) を行い、都市基盤工学コースは専門科目 (構造力学・水理学・地盤工学・環境衛生工学・建築環境工学・都市計画学・建築理論 (計画・歴史) ・建築設計 (実技) ) の中から3科目の筆記試験、建築環境デザインコースはについて専門科目 (構造力学・建築環境工学・都市計画学・建築理論 (計画・歴史) ・建築設計 (実技) ) の中から3科目の筆記試験を行い、面接・調査書・健康診断を基にした総合的判断で行われます。例年、9月のはじめ頃に行われます。合格者数が応募定員に充たない場合、翌年の2月に2次募集が実施されることもあります。

## 2. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの概要

修士課程では、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職務などに必要な能力を養うことを目的としています。各教員からの講義も行われますが、指導教員のもとで各研究テーマに基づいた自主的な学習・研究活動が基本です。学部時代の学科にとらわれず、自分が研究したいテーマの指導教員がいる専攻を選ぶことができます。修了し学位論文審査に合格すると修士 (工学) の学位が与えられます。

### ■博士前期課程の修了要件

大学院教養教育プログラムの4単位 (必修科目3単位含む) 以上、自然科学系研究科共通科目の8単位以上、専門科目から48単位 (必修科目38単位含む) 以上の合計60単位以上を修得し、修士論文あるいは特定の課題の研究成果の審査に合格すると修士 (工学) の学位が受けられます。



### 3. 都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの講義科目概要

以下に、都市基盤工学コース・建築環境デザインコースで開講される授業科目の概要を示します。詳細なシラバスについては、LiveCampus システム上のオンラインシラバスを参照してください。

#### ■専門科目（必修）

**水環境システム工学特論**（2単位・半期・都市基盤必修） 担当教員：ナルモン

湖沼、河川などの水環境の基本現象（物質輸送・変換特性や生態系の基本原理）について概説する。経済活動に伴う水質汚濁と水質制御技術の変遷について説明する。総合水管理の現況と課題について概説し、水質管理や水量管理におけるシステム論の必要性について講義する。公共事業に関連する環境評価に関する先駆的な取り組み事例を水環境システムの観点から紹介する。

**土質力学特論**（2単位・半期・都市基盤必修） 担当教員：日野剛徳

土の力学を地盤工学上の境界値問題と解く手段とみなすならば、物理化学的性質は物性を記述するための基礎的知見である。これは、数理的な手法では説明しえない土の現象を物理化学的性質の解明によって記述しうる事が多く、有力な武器と見なすことができるであろう。本講義では、土の物理化学的性質の内容について集中的に説明する。

**応用流体力学特論**（2単位・半期・都市基盤必修） 担当教員：押川英夫

流体運動の基礎方程式であるナビエ・ストークスの運動方程式と乱流におけるレイノルズの運動方程式について、それらの差異を含めて学ぶとともに、海岸工学の基本となる微小振幅波理論について学ぶ。更に、水理学における代表的な不規則現象である乱流と水面波の統計的な特性について学ぶ。

**構造工学特論**（2単位・半期・都市基盤必修、建築環境選択） 担当教員：井嶋克志

(1) 変位法による線形解析の復習と強制変位問題および熱応力問題への対応  
(2) 接線剛性法を用いた幾何学的非線形解析 (3) RC 構造物の材料非線形解析 (4) これらを総括した動的解析。本講義はこれらの項目を主な内容とする。技術者として構造解析の汎用ソフトをブラックボックス化しない目的のもとに、橋梁を対象に実務における耐震安定性の照査を中心とした講義である。

**建築環境デザイン特別演習Ⅰ**（2単位・半期・建築環境必修） 担当教員：三島伸雄

急速な現代社会の変化を前提に、それに対応する都市、建築の社会的整備、空間構成の方法を、フィールドワークを含む計画・設計演習として学ぶ。特に、建築的解決の可能性とその具体的提案を求める。

**建築環境デザイン特別演習Ⅱ**（2単位・半期・建築環境必修） 担当教員：平瀬有人

リアリティのある建築設計演習として、実際のプロポーザルやプロジェクトを題材とした設計課題に取り組み、設計図書の作成演習を行う。

**建築環境設計特別演習**（2単位・半期・建築環境必修） 担当教員：小島昌一・中大窪千晶

近年の環境問題も視野に含めた環境工学からみた建築のあり方や、その工学的コントロールの手法の演習を行う。まず、建築設計における冷暖房のガイドラインを習得した後に、建築物の省エネルギー基準の年間熱負荷係数 PAL の計算方法を習得する。その後、都市・建築における環境に関する講義・演習を行う。また、実在する建物に用いられている環境工学の技術について文献調査を行い、「地球環境の保全」、「持続可能な社会」が求められる中での環境デザインについて討論する。

**都市基盤工学特別研究 I～IV** (合計 30 単位・都市基盤必修) 担当教員：各指導教員  
修士課程入学後に、指導教員と相談・協議を経て研究課題が設定される。修士論文で取り扱う研究課題を計画的かつ戦略的に推進して行く。本講義は、2 年間の各学期に時間外の形式で開講する。日常の教育指導は指導教員が行う。

**建築環境デザイン特別研究 I～IV** (合計 30 単位・建築環境必修) 担当教員：各指導教員  
修士課程入学後に、指導教員と相談・協議を経て研究課題が設定される。修士論文で取り扱う研究課題を計画的かつ戦略的に推進して行く。本講義は、2 年間の各学期に時間外の形式で開講する。日常の教育指導は指導教員が行う。

#### ■ 専門科目 (選択)

**非線形構造解析学特論** (2 単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択・学部開放科目) 担当教員：帯屋洋之  
変位法は、コンピュータによって構造物の設計計算を行う際に非常に有用であるだけでなく、有限要素法による汎用コードで用いられている理論等に比しても、その理論構成が非常に単純で明解な、たわみ角法の拡張理論である。本講義では、平面骨組構造への変位法の適用と、その応用としての幾何学的非線形問題への拡張について述べるほか、実際のコンピュータ端末を用いてプログラムを作成することにより、アルゴリズムの流れと求解に至るまでの力学的な概念を習得することを目的とする。

**環境地盤工学特論** (2 単位・半期・都市基盤選択・学部開放科目) 担当教員：柴錦春  
地盤汚染の防止と汚染した地盤の浄化等は地球環境問題における重要な課題の一つである。地盤環境問題を対処するために、技術者は、一般の地質工学と土木工学の知識だけでなく、水理地質、地質化学、生物学の知識を勉強しなければならない。この授業の目的は環境地盤工学の基礎知識、廃棄物処分場の設計法、汚染された地盤の浄化技術及び現場モニタリング技術を教えることである。全体は以下の五つの部分で構成される。  
(1) 地盤の汚染問題 (2) 環境地盤工学の一般原理 (3) 新しい廃棄物処分場の設計と施工  
(4) 汚染地盤の処理と浄化技術 (5) 観測法と観測技術

**水環境情報学特論** (2 単位・半期・都市基盤選択・学部開放科目) 担当教員：大串浩一郎  
流域や沿岸域における水環境の情報を効率良く取得し、活用することによって、我々の身のまわりの水環境を的確に把握し、防災・水利用ならびに自然と共生した環境の創造に繋げることが可能である。本講義では、水環境に関連するリモートセンシング・GIS の応用技術ならびに数値シミュレーションによる現象の理解と活用方法について学ぶ。

**都市デザイン特論** (2 単位・半期・建築環境選択・学部開放科目) 担当教員：三島伸雄  
西欧や日本の都市デザインの具体的事例を、特に地域特性ならびにそれらを考慮した整備手法や法制度などの側面を検証し、都市デザインの理念及びそれを実現する技術や手段などについて理解を深める。また、各国事例を比較することによって、それらの特徴や問題点を浮かび上がらせ、これらの都市デザインのあり方について考察する。

**都市構成システム論** (2 単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択・学部開放科目) 担当教員：猪八重拓郎  
空間相互作用型の都市モデルを通して、都市の内部構造の成り立ちや都市施設の立地による移動等の都市活動への影響を明らかにし、システム論的な観点から都市構成の問題やその構築の方向性について講義する。さらに具体論として、都市の構成や周辺環境に大きな影響を与えると考えられる「開発」による影響を分析する手法とその管理のあり方について検討する。

**建築環境工学特論** (2単位・半期・建築環境選択・学部開放科目) 担当教員：小島昌一  
建築環境工学とは、採光、通風・換気、断熱、音響、あるいは冷暖房設備などの機械力により、快適な室内空間を実現する技術に関する学問である。本講義では、建築空間における熱・空気の制御という観点から、居住空間のあり方ならびに環境物理要因の最適化について講義する。また、建築環境分野における省エネルギー化についても、エネルギー管理の観点から論じる。

**地震工学特論** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択) 担当教員：井嶋克志  
建設関連の技術者が持つべき耐震設計に関する知識と将来一般的となると思われる構造物の非弾性現象を伴う動的解析手法について先端的レベルで授業を行う。

**建設材料学特論** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択) 担当教員：伊藤幸広  
建設材料、構造物および施工方法など建設分野における過去の重要な発明、技術開発について、従来技術からの改良点、開発に至る経緯などを踏まえて解説する。なお、この解説には特許公報を用いるため、我が国の知的財産権制度のあらましについても触れる。さらに、チェックリスト法、ブレインストーミング法などの発想法および一連の技術開発システムについて講義し、実際に学生にテーマを与え上記の方法を実践、体得させ発想力を養う。

**維持管理工学特論** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択) 担当教員：伊藤幸広  
適切な施工とその後の維持管理によって構造物は安全で十分な耐久性を持つ。建築・土木構造物(RC建築物、橋梁、道路などを例に上げ)の維持管理の考え方から各種維持管理技術について学ぶ。

**低平地防災地盤工学特論** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択) 担当教員：日野剛徳  
本講義では、降雨や地震動で発生する斜面災害・地盤沈下や液状化などの地盤災害について、災害事例と対策事例を紹介しながら災害発生のメカニズムおよび対策技術の原理について講義する。

**低平地地圏環境学特論** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択) 担当教員：日野剛徳  
第1章 概説、第2章 低平地地盤の生成と特徴、第3章 低平地地盤の開発と保全、第4章 低平地地圏環境の特性、第5章 地圏環境・土壌の汚染と防止対策、第6章 汚染地盤・土壌の浄化技術、第7章 埋立最終処分場の技術と課題、第8章 地球環境問題と低平地の地圏環境

**地盤工学特論** (2単位・半期・都市基盤選択) 担当教員：根上武仁  
本講義では次の3つの内容について説明する。(1)土構造物等の地盤の設計に必要な土の強さと破壊について説明する。(2)地盤を安定化させるために利用される地盤の改良技術について説明する。(3)環境保全や資源の有効活用の観点から、現在積極的に利用されつつある建設発生土や産業副産物による人工材料について、それらの地盤工学的な特性や利用における課題等を説明する。なお、本講義では学部科目の「土質力学」ならびに「地盤工学」を履修していることが望ましい。

**水工学特論** (2単位・半期・都市基盤選択) 担当教員：大串浩一郎  
土木技術者が水理計算を行う際に必要な差分法に関する基礎的事項を講義する。まず、差分法の基礎について概説し、次に1次元開水路流れについてサンブナンの仮定に基づき、積分形式・微分形式の基礎式を導出する。さらに基礎式に対する種々の有限差分法を紹介し、また、計算法の数値安定性について議論する。最後に、河床変動や物質拡散シミュレーションのための数値計算法など応用的な事柄について講義する。

**水処理工学特論** (2単位・半期・都市基盤選択) 担当教員：三島悠一郎  
公共用水域や地下水の保全、水質汚濁の改善のための下 wastewater 処理、地下水浄化、水域の直接浄化について、対象水質と単位プロセス、各種水処理プロセスの原理とフロー、設計因子、運転操作条件などについて講義、演習を行い、水質制御の基本計画、水処理プロセスの基本設計が行える程度までの理

解を図る。

**環境輸送特論** (2単位・半期・都市基盤選択) 担当教員：山西博幸

本講義では、環境中における物質反応を伴う移動現象として、我々の生活圏である水域及び大気域での流体による物質輸送を取り扱う。この際、物質、運動量及びエネルギーの収支の概念から導かれる輸送現象モデルは工学的ツールとして重要である。ここでは、物理現象、化学現象、生物学的現象及び生態系を加味した輸送現象を体系的に構築するための基礎的事項を学ぶ。

**低平地水圏環境学特論** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択) 担当教員：山西博幸

社会生活の高度化とともに水域に対する関心は年々増加している。ここでは、低平地であるが故に生ずる水圏環境に関わる諸問題に着目しつつ、人間と環境、特に水質汚濁や土壤汚染に関わるテーマについて学習し、環境保全を含めた工法・手法について学ぶ。

**国際都市・環境特別演習** (2単位・半期・都市基盤選択・建築環境選択・集中)

担当教員：三島・柴・小島・日野・李・猪八重・平瀬

合意形成の困難さとそのシステム化の意義を疑似体験を通して修得することを目的としている。想定された「開発計画」について、開発チームはその開発による影響を様々な側面から評価し、「経済的評価」と「開発影響評価」のレポートを作成する。この開発計画には複数の対立意見があるものと仮定し、「模擬審査会」の場において、開発チームによるレポートの説明、対立グループとの討議、中立的なインスペクターによる総括というプロセスを体験する。学術交流協定校等との連携による国際ワークショップなどへの参加を通じて、海外の大学生等と建築都市デザインに関する国際的な技術交流を行い、そのスキルアップを図るとともに、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

**建築都市空間論** (2単位・半期・建築環境選択) 担当教員：宮原真美子

西欧や日本の建築あるいは都市の空間構成について検討し、それらの基本的構造や性格を社会背景、技術等も参照しながら理解する。また、そうした空間的特質の現代的展開についても考察し、計画・設計手法の可能性を探る。

**住環境論** (2単位・半期・建築環境選択) 担当教員：後藤隆太郎

人間の生活空間における住環境の意味と果たすべき役割を扱う。自然風土との調和、地域における文化や社会との対応を通じて理解を深めるとともに、人間が集住するための理論や実践、また、その今日的展開について考察する。

**建築デザイン論** (2単位・半期・建築環境選択) 担当教員：平瀬有人

建築デザインは本来、個別解であるが、一方、時代や社会に通底する共通性からも自由ではない。建築デザインの今日的な事例を取り上げ、その理論や手法等を分析し、創作への展開を論ずる。

**建築環境設計特論** (2単位・半期・建築環境選択) 担当教員：中大窪千晶

地球環境問題や都市部での環境問題、さらには居住環境について建築環境工学との関わりを中心に講義を行う。特に、環境問題に対する社会的な動きや技術的な工学的なアプローチに関して解説を行い、それを踏まえて今後の環境デザインについて議論し、考察を行う。

**地域デザイン特別演習** (2単位・半期・建築環境選択) 担当教員：後藤隆太郎・宮原真美子

特定の地域や地区を対象とし、その地域社会の諸問題を検討・抽出し、そこで活動する諸団体とも共同しつつ建築的解決を実地にて取り組む。つまり「地域デザイン」として、地域における不特定多数からの要求をくみとり、建築的デザイン提案の制作及び発表、さらには設計提案に関する地域の人々との議論など、これら一連の活動を通じて建築を学ぶ。

表 2-1 都市基盤工学コースの科目一覧

科目区分	授業科目	単位数	備考
大学院教養教育プログラム	★研究・職業倫理特論	1	★を付した授業科目を含めて,4単位以上選択必修
	★情報セキュリティ特論	1	
	★データサイエンス特論	1	
	学術英語特論	1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1	
	キャリアデザイン特論	1	
	多文化共生理解	1	
自然科学系研究科共通科目	★創成科学融合特論	2	★を付した授業科目を含めて,8単位以上選択必修。
	★創成科学 PBL 特論	2	
	★知的財産特論	2	
	医学・看護学概論	1	
	農学総合概論	1	
	創成科学インターンシップ S	1	
	創成科学インターンシップ L	2	
	理工学特別講義	2	
	数学概論	1	
	物理学概論	1	
	知能情報工学概論	1	
	材料化学特論	1	
	機械工学概論	1	
	電気電子工学概論	1	
	人体構造機能学概論	1	
	人体構造実習	1	
	看護理論	1	
	生物科学特論	1	
	生命機能科学特論	1	
	食資源環境科学特論	1	
国際・地域マネジメント特論	1		
専門科目	★土質力学特論	2	★を付した授業科目を含め 48 研究科規則第 6 条第 2 項の規定
	★水環境システム工学特論	2	
	★応用流体力学特論	2	
	★構造工学特論	2	
	★都市基盤工学特別研究 I	5	
	★都市基盤工学特別研究 II	5	
	★都市基盤工学特別研究 III	10	
	★都市基盤工学特別研究 IV	10	
	環境輸送特論	2	
	水処理工学特論	2	
	地盤工学特論	2	
	水工学特論	2	
	水環境情報学特論	2	
	環境地盤工学特論	2	
	都市構成システム論	2	
	維持管理工学特論	2	
	国際都市・環境特別演習	2	
	低平地地圏環境学特論	2	
	低平地水圏環境学特論	2	
	低平地防災地盤工学特論	2	
	非線形構造解析学特論	2	
	建設材料学特論	2	
	地震工学特論	2	

科目 区分	授業科目	教員名	単位	修士課程開講学期			
				平成31年度		平成32年度	
				前期	後期	前期	後期
専 門 科 目	*水環境システム工学特論	ナルモン	2	○		○	
	土質力学特論	日野 剛徳	2	○		○	
	応用流体力学特論	押川 英夫	2		○		○
	*構造工学特論	井嶋・帯屋	2		○		○
	*都市構成システム論	猪八重 拓郎	2		○		
	維持管理工学特論	伊藤 幸広	2		○		
	国際都市・環境特別演習	三島・柴・小島・日野・李・猪八重・平瀬	2	集中	集中	集中	集中
	*環境地盤工学特論	柴 錦春	2	○		○	
	*地盤工学特論	根上 武仁	2		○		
	水工学特論	大串 浩一郎	2	○			
	*水環境情報学特論	大串 浩一郎	2			○	
	*環境輸送特論	山西 博幸	2	○			
	*水処理工学特論	三島 悠一郎	2				○
	*低平地地圏環境学特論	日野 剛徳	2	○			
	低平地水圏環境学特論	山西 博幸	2			○	
	低平地防災地盤工学特論	日野 剛徳	2				○
	*非線形構造解析学特論	帯屋 洋之	2			○	
	*建設材料学特論	伊藤 幸広	2			○	
	地震工学特論	井嶋 克志	2				○
	都市基盤工学特別研究 I	井嶋・柴・大串・伊藤・日野・三島・帯屋・小島・山西・押川・ナルモン・後藤・平瀬・李・猪八重・中大窪・宮原・根上・坂井・三島	5	○			
都市基盤工学特別研究 II	同上	5		○			
都市基盤工学特別研究 III	同上	10			○		
都市基盤工学特別研究 IV	同上	10				○	

注) \*の科目は、環境・エネルギー科学グローバル教育プログラムの学生が履修した場合は、全て英語で開講される。

科目区分	授業科目	教員名	単位	修士課程開講学期			
				平成31年度		平成32年度	
				前期	後期	前期	後期
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	根上武仁	1	○		○	
	情報セキュリティ特論	只木・堀・大谷・廣友	1	○		○	
	データサイエンス特論	皆本・堀・山下・竹村・田中・稲葉・北垣・半田・廣友・木村・日比野・中川・上原・川口・富永・西郡	1		○		○
	学術英語特論	Petrus Roux	1	○	○	○	○
	ダイバーシティ・人権教育特論	松下・荒木	1		○		○
	キャリアデザイン特論	光富勝	1		○		○
	多文化共生理解	中尾・重竹・山崎・吉住・後藤・谷口・山田・古川	1	○		○	
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論		2	○		○	
	創成科学PBL特論		2	○	○	○	○
	知的財産特論		2		○		○
	医学・看護学概論		1	○		○	
	農学総合概論		1	○		○	
	創成科学インターンシップS		1	集中	集中	集中	集中
	創成科学インターンシップL		2	集中	集中	集中	集中
	理工学特別講義		2				
	数学概論		1		○		○
	物理学概論		1		○		○
	知能情報工学概論		1		○		○
	材料化学特論		1		○		○
	機械工学概論		1		○		○
	電気電子工学概論		1		○		○
	都市工学通論（注1）		1		○		○
	人体構造機能学概論		1	○		○	
	人体構造実習		1		○		○
	看護理論		1	○		○	
	生物科学特論		1		○		○
	生命機能科学特論		1		○		○
食資源環境科学特論		1		○		○	
国際・地域マネジメント特論		1		○		○	

注1: 都市基盤工学コース及び建築環境デザインコースの学生は「都市工学通論」以外の科目を修得しなければならない。





科目 区分	授業科目	教員名	単位	修士課程開講学期			
				平成31年度		平成32年度	
				前期	後期	前期	後期
専 門 科 目	*建築環境デザイン特別演習Ⅰ	三島 伸雄	3	○		○	
	*建築環境デザイン特別演習Ⅱ	平瀬 有人	3		○		○
	建築環境設計特別演習	小島・中大窪	2		○		○
	*都市構成システム論	猪八重 拓郎	2		○		
	維持管理工学特論	伊藤 幸広	2				○
	建築特別インターンシップA	平瀬 有人	2	集中	集中	集中	集中
	建築特別インターンシップB	平瀬 有人	2	集中	集中	集中	集中
	国際都市・環境特別演習	三島・柴・小島・日野・ 李・猪八重・平瀬	2	集中	集中	集中	集中
	地域デザイン特別演習	後藤・宮原	2		○		○
	*都市デザイン特論	三島 伸雄	2	○			
	建築デザイン論	平瀬 有人	2	○			
	*建築環境工学特論	小島 昌一	2	○			
	*建築環境設計特論	中大窪 千晶	2			○	
	*建築都市空間論	宮原 真美子	2	○		○	
	*住環境論	後藤 隆太郎	2				○
	低平地地圏環境学特論	日野 剛徳	2	○			
	低平地水圏環境学特論	山西 博幸	2			○	
	低平地防災地盤工学特論	日野 剛徳	2				○
	*非線形構造解析学特論	帯屋 洋之	2			○	
	*構造工学特論	井嶋・帯屋	2		○		○
	*建設材料学特論	伊藤 幸広	2			○	
	地震工学特論	井嶋 克志	2				○
	建築環境デザイン特別研究Ⅰ	井嶋・柴・大串・伊藤・ 日野・三島・帯屋・小 島・山西・押川・ナル モン・後藤・平瀬・李・ 猪八重・中大窪・宮原・ 根上・坂井・三島	5	○			
	建築環境デザイン特別研究Ⅱ	同上	5		○		
建築環境デザイン特別研究Ⅲ	同上	10			○		
建築環境デザイン特別研究Ⅳ	同上	10				○	

注) \*の科目は、環境・エネルギー科学グローバル教育プログラムの学生が履修した場合は、全て英語で開講される。

科目区分	授業科目	教員名	単位	修士課程開講学期			
				平成31年度		平成32年度	
				前期	後期	前期	後期
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	根上武仁	1	○		○	
	情報セキュリティ特論	只木・堀・大谷・廣友	1	○		○	
	データサイエンス特論	皆本・堀・山下・竹村・田中・稲葉・北垣・半田・廣友・木村・日比野・中川・上原・川口・富永・西郡	1		○		○
	学術英語特論	Petrus Roux	1	○	○	○	○
	ダイバーシティ・人権教育特論	松下・荒木	1		○		○
	キャリアデザイン特論	光富勝	1		○		○
	多文化共生理解	中尾・重竹・山崎・吉住・後藤・谷口・山田・古川	1	○		○	
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論		2	○		○	
	創成科学PBL特論		2	○	○	○	○
	知的財産特論		2		○		○
	医学・看護学概論		1	○		○	
	農学総合概論		1	○		○	
	創成科学インターンシップS		1	集中	集中	集中	集中
	創成科学インターンシップL		2	集中	集中	集中	集中
	理工学特別講義		2				
	数学概論		1		○		○
	物理学概論		1		○		○
	知能情報工学概論		1		○		○
	材料化学特論		1		○		○
	機械工学概論		1		○		○
	電気電子工学概論		1		○		○
	都市工学通論（注1）		1		○		○
	人体構造機能学概論		1	○		○	
	人体構造実習		1		○		○
	看護理論		1	○		○	
	生物科学特論		1		○		○
	生命機能科学特論		1		○		○
食資源環境科学特論		1		○		○	
国際・地域マネジメント特論		1		○		○	

注1:都市基盤工学コース及び建築環境デザインコースの学生は「都市工学通論」以外の科目を修得しなければならない。

## 4. 修士課程の中間発表会（都市基盤工学特別研究 II、建築環境デザイン特別研究 II）について

### ■中間発表の目的

修士課程 1 年次の後学期には、ポスターセッション方式の修士論文中間発表会が行われます。「都市基盤工学特別研究 II」（必修 5 単位）および「建築環境デザイン特別研究 II」（必修 5 単位）の一部として行われるものであり、必ず参加しなければなりません。この中間発表は、修士 2 年最後にまとめる修士論文をより完成度の高いものにするために行うものです。これまで行ってきた研究の進捗状況をチェックし、問題点があれば修正し、約 1 年後の修士論文発表の日までさらに指導教官とも議論を密に重ね、立派な論文を仕上げてくださいと思います。

### ■ポスターセッションによる発表

#### (1) ポスターセッション

- ・パネル等の会場設営は、教職員と大学院進学予定の 4 年生で準備します。
- ・開始時刻までに、ポスター掲示等を完了すること。
- ・ポスターセッション（90 分間）で、指導教員以外の教員等との質疑応答、今後に向けた有効な議論を行うこと。
- ・質問や議論の内容を記録すること。

#### (2) ポスター

- 形状は任意、パネル（縦 120cm×横 90cm）内に納めること。
  - 研究テーマ・内容について、下記を含み、図、写真、グラフなど用いて工夫すること。
    - 研究に至った経緯・背景
      - ・従来の研究経過や研究成果に関する調査
      - ・着想に至った経緯、研究の背景 など
    - 研究目的
      - ・明らかにしようとする事
      - ・研究の範囲 など
    - 研究方法や今後の計画
      - ・具体的な研究計画とその方法 など
  - ポスター上部に、研究題目、学籍番号、氏名を明記（高さ 2.5cm）、文字サイズは 1.5m の距離から読める程度の大きさとする事。
  - 内容を補足する、基礎資料ファイル、既発表論文、実験資材などの持ち込み、パソコンなどの視聴覚機器使用も適宜可能とします。
- (3) 90 分の公式発表会の後に簡単な懇親会を開催いたします。発表者は、この非公式な場を利用してさらに有益な意見交換が可能となりますので、是非参加して下さい。
- (4) 「都市基盤工学特別研究 II」および「建築環境デザイン特別研究 II」は、「ポスターセッション」への参加および別途指示する「作業報告書」及び「中間発表まとめ」の提出により評価します。
- (5) やむを得ない理由が認められる場合の代理参加等について、必ず事前に指導教員および実施担当教員（教務委員）に申し出て、指示を得ること。

### ■中間発表に向けた準備

研究室においては学会などの専門家レベルの討議に耐えられるように、かつ後輩等からの基礎的な質問にも答えられるよう準備を進めて下さい。

ポスターならびに発表会で準備する基礎資料の製作においては、研究室のゼミ資料、学会での発表論文などを転用して、極力負担を軽減し要領よくまとめて下さい。成果がまだ十分でない場合は、基礎資料ファイルや教科書の専門書・論文などのファイルを準備し、中間発表の際のディフェンス材料として準備しておいて下さい。

## 5. 博士後期課程について

### ■ 工学系研究科博士後期課程 システム創成科学専攻・社会循環システム学コース

博士後期課程は各専門分野についての高度な研究能力のみならず、幅広い学際的視野と総合的判断力、対応能力を養うことを目的としています。したがって、三年間のほとんどを自身の専門分野に関する研究に費やすことになり、研究成果を国内外の学会等で発表するほか、審査付きの学会論文集に投稿し少なくとも2～3編掲載されることが求められます。修了し学位論文審査に合格すると博士（工学）の学位が与えられます。

入学者選抜は、筆記試験、口述試験、面接等によって行われます。

# 第3部 大学院博士前期課程の カリキュラムと学習指針

(平成30(2018)年度以前入学生)

## 1. 平成 30 (2018) 年度以前入学生

### ■博士前期課程の修了要件

専門基礎教育科目(文献調査研究・都市工学コロキウム)の4単位(必修)、専門教育科目から22単位以上、大学院教養教育プログラムから4単位以上の合計30単位以上を修得し、修士論文あるいは特定の課題の研究成果の審査に合格すると修士(工学)の学位が受けられます。

### ■各授業科目の概要

授業科目の詳細なシラバスや科目概要については、LiveCampus システム上のオンラインシラバス、および本冊子第2部「大学院修士課程のカリキュラムと学習指針(平成31(2019)年度以降入学生)」の各授業科目概要を参照してください。

表 3-1 博士前期課程 都市工学専攻の科目一覧 (旧カリ)

科目区分	科目名	単位	備考		
専門 科目	基礎教育科目	文献調査研究	2 必修		
		都市工学コロキウム	2 必修		
	専門教育科目	都市工学特別演習	2	22 単位以上選択必修 ただし、※を付した科目は、このうち 1 科目のみ修了要件に算入することができる。	
		地震工学特論	2		
		構造工学特論	2		
		計算力学特論	2		
		応用力学特論	2		
		建設材料学特論	2		
		維持管理工学特論	2		
		防災地盤工学特論	2		
		低平地地圏環境学特論	2		
		環境地盤工学特論	2		
		地盤動力学特論	2		
		地盤工学特論	2		
		土質力学特論	2		
		応用流体力学特論	2		
		水環境情報学特論	2		
		水工学特論	2		
		水環境システム工学特論	2		
		水環境管理工学特論	2		
		水処理工学特論	2		
		環境輸送特論	2		
		低平地水圏環境学特論	2		
		都市構成システム論	2		
		国際都市・環境特別演習(都市・環境工学)	2		国際パートナーシップ・集中 国際パートナーシップ・集中
		国際都市・環境特別演習(建築・都市デザイン)	2		
		都市環境性能特論	2		
		建築・都市デザイン特別演習 I	2		
		建築都市空間論	2		
		都市デザイン論	2		
		建築空間計画特論	2		
		建築・都市デザイン特別演習 II	2		
		住環境論	2		
		地域デザイン特別演習	2		
		建築環境工学特論	2		
		建築環境設計特別演習	2		
		建築デザイン論	2		
		建築環境設計特論	2		
		建築特別インターンシップ I	2		集中 集中
		建築特別インターンシップ II	2		
	都市工学考究 I	1	具体的講義名と単位数は別途定める 具体的講義名と単位数は別途定める		
	都市工学考究 II	2			
	※数値計算法特論	4	集中		
	※産学連携特論	2			
	※ビジネスマネジメント特論	2	集中		
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1	研究・職業倫理特論, 情報セキュリティ特論, データサイエンス特論を含めて 4 単位以上選択必修		
	情報セキュリティ特論	1			
	データサイエンス特論	1			
	学術英語特論	1			
	ダイバーシティ・人権教育特論	1			
	キャリアデザイン特論	1			
	多文化共生理解	1			

科目区分	授業科目	教員名	単位	博士前期課程開講学期			
				平成 31 年度		平成 32 年度	
				前期	後期	前期	後期
基礎教育科目	文献調査研究	指導教員	2	○		○	
	都市工学コロキウム	専攻長	2		集中		集中
専門科目	都市工学特別演習	猪八重 拓郎 井嶋 克志 柴 錦春	2	○		○	
	地震工学特論	井嶋 克志	2				○
	構造工学特論	井嶋 克志	2		○		○
	計算力学特論	帯屋 洋之	2			○	
	応用力学特論	帯屋 洋之	2				
	建設材料学特論	伊藤 幸広	2			○	
	維持管理工学特論	伊藤 幸広	2		○		
	防災地盤工学特論	日野 剛徳	2				○
	低平地地圏環境学特論	日野 剛徳	2	○			
	環境地盤工学特論	柴 錦春	2	○		○	
	地盤動力学特論	坂井 晃	2	○			
	地盤工学特論	根上 武仁	2		○		
	土質力学特論	日野 剛徳	2	○		○	
	応用流体力学特論	押川 英夫	2		○		○
	水環境情報学特論	大串 浩一郎	2			○	
	水工学特論	大串 浩一郎	2	○			
	水環境システム工学特論	ナルモン	2	○		○	
	水環境管理工学特論	三島 悠一郎	2	○			
	水処理工学特論	三島 悠一郎	2				○
	環境輸送特論	山西 博幸	2	○			
	低平地水圏環境学特論	山西 博幸	2			○	
	都市構成システム論	猪八重 拓郎	2		○		○
	国際都市・環境特別演習 (都市・環境工学)	李 海峰 猪八重 拓郎	2	集中	集中	集中	集中
	国際都市・環境特別演習 (建築・都市デザイン)	三島 伸雄 小島 昌一	2	集中	集中	集中	集中
	都市環境性能特論	李 海峰	2	○			
	建築・都市デザイン特別演習 I	三島 伸雄	3	○		○	
	建築都市空間論	宮原 真美子	2	○		○	
	都市デザイン論	三島 伸雄	2	○			
	建築空間計画特論	三島 伸雄	2				
	建築・都市デザイン特別演習 II	平瀬 有人	3		○		○
住環境論	後藤 隆太郎	2				○	
建築環境工学特論	小島 昌一	2	○				
建築デザイン論	平瀬 有人	2	○				



科目区分	授業科目	教員名	単位	博士前期課程開講学期				
				平成 31 年度		平成 32 年度		
				前期	後期	前期	後期	
専門科目	専門教育科目	建築環境設計特論	中大窪 千晶	2			○	
		建築環境設計特別演習	小島 昌一 中大窪 千晶	2		○		○
		地域デザイン特別演習	後藤 隆太郎 宮原 真美子	2		○		○
		建築特別インターンシップⅠ	平瀬 有人 後藤・三島 (伸)	2	集中	集中	集中	集中
		建築特別インターンシップⅡ	平瀬 有人 後藤・三島 (伸)	2	集中	集中	集中	集中
		都市工学考究Ⅰ	未定	1				
		都市工学考究Ⅱ	未定	2				
		数値計算法特論	磯・西村・藤原	4				
		産学連携特論	佐藤 三郎	2				
		ビジネスマネジメント特論	横瀬 勉	2				
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	根上 武仁	1	○		○		
	情報セキュリティ特論	只木・堀・大谷・ 廣友	1	○		○		
	データサイエンス特論	皆本・堀・山下・竹 村・田中・稲葉・北 垣・半田・廣友・木 村・日比野・中川・ 上原・川口・富永・ 西郡	1		○		○	
	学術英語特論	Petrus Roux	1	○	○	○	○	
	ダイバーシティ・人権教育特論	松下・荒木	1		○		○	
	キャリアデザイン特論	光富勝	1		○		○	
	多文化共生理解	中尾・張・山	1	○		○		

## 第4部 就職・資格／免許・学生生活について

## 1. 進路の選択ー就職してどんな仕事をするかー

学部卒業後もしくは大学院修了後に、社会においてどのような仕事を行うかという重要な選択を行う必要があります。そのためには在学中の早い時期から職種や仕事内容についての情報を集め、自分の適性を見極めることが重要です。

### ■公務員に就職した場合

公務員には国家公務員と地方公務員があります。国家公務員は、平成 24(2012)年より採用試験が大幅に変更となり、総合職試験、一般職試験、専門職試験、経験者採用試験という体系となりました。総合職試験は、政策の企画立案等の高度の知識、技術又は経験を必要とする業務に従事する係員の採用試験であり、一般職試験は、事務処理等の定型的な業務に従事する係員の採用試験です。学部生および大学院生ともに経験者採用試験以外の試験は受験可能です。地方公務員は上級、中級、初級に分かれており、大学卒は上級又は中級となります。また地方公務員には職種が決められており、本学科・専攻では技術系の土木職または建築職の受験が一般的です。国家公務員は国の機関である各本省やその出先機関である地方部局に所属します。地方公務員は採用された都道府県、市町村に所属し、住民の福祉の増進に勤めます。

#### ○仕事の内容

土木職公務員の場合は、土木技術者であると同時に国、都道府県、市町村の行政（許認可事務）の1部も担当します。おもな仕事は都市の再開発や各種土木構造物や施設を建設するために必要な各種の調査、測量、需要量の将来予測、設計委託、工事費積算、工事発注、工事監督および許認可事務にともなう技術的審査等です。ただし、公社・公団（独立行政法人）の場合は行政事務が担当せず、おもに大型プロジェクト（高速道路・ダム・橋梁・処理施設など）の建設とその維持管理を行います。一方、建築職公務員の業務は、建築確認申請、建築法規などに関する相談業務及び市営住宅や行政施設の建設管理、修繕業務を行いません。建築確認申請というのは、建物を建てるときに、建築基準法に合っているかどうかの確認の申請が原則必要となりますが、その申請内容をチェックする事が主な業務となります。また後者では図書館、学校、市営住宅、公民館など行政施設について新築工事の管理や修繕、改築工事などを担当します。

### ■総合建設業に就職した場合

総合建設業とは、元請負者として各種の土木・建築工事を一式で発注者から直接請負い、工事全体のとりまとめを行う建設業者のことをいい、通称ゼネコンと呼ばれています。主な会社は全国で約 500 社ほどです。これを会社の規模で分けると大手と呼ばれるものが約 40 社、中小と呼ばれるものが 460 社あります。大手の建設会社は全国で仕事をするので、主な都市には支店又は出張所を持っています。中小の建設会社はおおむね複数の県、又はその会社のある県内のみでの限定された地域の仕事をするもので、支店や出張所もそれなりに限定されています。今までの卒業生の就職先は、大手と中小を含めて、受注高の上位から 100 社ぐらいまでの会社が大部分ですが、県内業者に入社している例もあります。

なお近年は、アジア諸国・中近東・アフリカ・中南米など外国の工事を受注する例もあり、この場合はおおむね大手の会社です。

#### ○仕事の内容

主に官公庁（国や県・市町村・公団公社）から発注される構造物や施設の建設を契約期限内に仕上げるのが主な仕事です。構造物や施設の種類も多種多様であるため、その現場も山間部や市街地など多岐にわたっています。会社では、必要に応じて本社・支社・出張所・現場事務所などに配属されますが、諸調査・測量・積算・施工管理・設計等に従事することになります。

### ■コンサルタントに就職した場合

ここでいうコンサルタントとは建設コンサルタントのことで、主に構造物・施設の建設や都市再開発、宅地造成にともなう設計や工事に関する調査・企画・立案に関する業務を官公庁・公社・公団等から受託するものです。建設コンサルタントの業務内容は道路・河川・都市計画等 18 の部門にわたる広範囲のものであり、各社、それぞれ得意とするいくつかの部門の技術者を有しています。

## ○仕事の内容

国や地方公共団体・公社・公団（独立行政法人）及び民間等から発注された各種プロジェクト建設のための調査・需要予測・地質調査・測量・各種構造物の実施設計・工事積算・工事管理等に従事します。

## ■その他

その他には、鉄道関係の会社、住宅建設販売会社、建築設計事務所、建設資材メーカー（コンクリート製品、鋼材など）、空調や管工事、道路工事を専門とする会社、プラント会社、電力・電気会社、各種デザイン会社、システムエンジニア会社及び高等学校教員等があります。

## 2. 都市工学科の卒業生就職先

都市工学科およびその前身である土木工学科と建設工学科を合わせて、平成 30 年 3 月までに 3,193 名の卒業生を社会に送り出しました。その就職先の内訳は下の表に示すとおりです。

理工系の採用活動も文系と同じように採用試験の実施時期が早まるとともに、ネット利用による自由応募制を採る企業が増えてきています。従来は学科に求人票を送り推薦者の中から採用する会社为主体でしたが、ネットを用いて広く人材を求め有能な人のみを採用する企業も増えてきました。このような状況において、学科が総ての採用情報を把握することは困難であり、学生個々の就職希望先とそれに基づく就職活動が重要となります。ネット利用による企業研究と採用情報収集は不可欠です。ただし、膨大な情報に戸惑う学生も見受けられます。毎年多数の求人票が学科に送られてきていますし、卒業生の就職先なども参考になります。自分の適性を理解した上で、目的意識をもって学習し、自己研鑽を重ねておかないと希望する職種に就けるとは限りません。新聞を読み日頃から社会情勢を理解すると共に、表現力（調査能力、文章能力、発表能力）を高める努力が求められます。しっかりと自己分析を行った上で、将来の進路を早めに決定し、積極的に就職活動を行って下さい。

表 4-1 平成 29 年度卒業・修了生の進路一覧表

職種		修 士	学 部
土木系	建設業・ゼネコン	1	27
	コンサルタント	11	7
	一般（含、JR、NTT 等）	0	3
建築系	ゼネコン	1	1
	住宅、住宅機器	3	10
	設備関係	2	2
	設計事務所	2	1
	一般（含、JR 等、NTT、建材関連）	0	0
プラント、メーカー等		1	4
IT 関連		0	0
その他（含、不動産）		1	9
公務員	国家	0	2
	都道府県	0	3
	市町村	0	6
	警察、消防、自衛隊 等	0	0
大学院	佐賀大学・院	3	15
	他大学・院	0	0
	大学院研究生/他大学	0	0
未定		2	2
合計		27	92

表 4-2 主な就職・進学先

業種	主な就職・進学先
国家公務員	国土交通省 経済産業省 防衛省 会計検査院 国土地理院 林野庁 他
公社・公団・独立行政法人・事業団等	日本下水道事業団 水資源開発公団 佐賀西部広域水道企業団 佐賀東部水道企業団 福岡土地区画整理協会 九州大学 長崎大学 他
都・道・府・県	佐賀県 福岡県 大分県 熊本県 長崎県 岡山県 山口県 愛媛県 和歌山県 京都府 千葉県 広島県 島根県 東京都 大阪府 他
市・町・村	佐賀市 唐津市 鳥栖市 鹿島市 福岡市 北九州市 宗像市 太宰府市 久留米市 大野城市 呉市 長崎市 大牟田市 熊本市 延岡市 宮崎市 長崎市 佐世保市 島原市 大村市 福江市 八代市 大野城市 大川市 日田市 長門市 柳川市 荒川区 小城市 大和町 他
総合建設業	アイワ工業 青木あすなろ建設 浅沼組 穴吹工務店 新井組 大林組 奥村組 鹿島建設 川田建設 熊谷組 五洋建設 西海建設 佐藤工業 三軌建設 清水建設 積水ハウス セキスイハイム 銭高組 大成建設 大和ハウス工業 竹中工務店 竹中土木 鉄建建設 東急建設 東亜建設工業 東洋建設 戸田建設 飛島建設 西松建設 日特建設 日本国土開発 前田建設工業 松尾建設 松本組 ミサワホーム 三井住友建設 みらい建設工業 村本建設 若築建設 大東建託 一条工務店 他
その他の建設業	大林道路 オリエンタル白石 ガイアート T・K 三機工業 JFE エン지니어リング 世紀東急工業 西部造園 大成ロテック 日揮 NIPPO 日本基礎技術 日本建設技術 日本道路 ピー・エス 富士・ピー・エス 不動産トラ 前田道路 松尾橋梁 宮地エンジニアリング 横河工事 IAO 竹田設計 他
コンサルタント	ウエスコ オオバ 応用地質 オリエンタルコンサルタント 九州建設コンサルタント 建設技術研究所 国際航業 構造計画研究所 セントラルコンサルタント 第一復建 大日本コンサルタント 中央コンサルツ 中国施設設計 東京建設コンサルタント 東京設計事務所 西日本技術開発 日水コン 日本工営 日本上下水道設計 日本水工設計 日本地研 日本理水設計 パシフィックコンサルタント 福岡都市技術 福山コンサルタント 三井共同建設コンサルタント 玉野総合コンサルタント 八千代エンジニアリング 他
一般企業	宇部興産 NTT 九州電力 九電工 西部ガス 佐世保重工業 佐電工 JR九州 JR東海 JR西日本 JR東日本 新日軽 西日本鉄道 日本通運 NEXCO 全日本航空 第一生命 本田技研工業 他
ソフトウェア・コンピュータ	沖ソフトウェア 九州日本電気ソフトウェア CRC 総合研究所 CSK 東芝九州システム開発 日立ソリューションズ 富士通 他
教職	九州大学 佐賀大学 山口大学 信州大学 熊本工業大学 豊田工業高等専門学校 八女工業高校 粕屋高校 鳥栖工業高校 唐津工業高校 塩田工業高校 他
大学院進学先	佐賀大学（修士・博士） 九州大学（修士・博士） 山口大学（修士） 広島大学（修士） 九州工業大学（修士） 東京大学（修士） 京都大学（修士） 大阪大学（修士） 東京工業大学（修士） 北海道大学（修士） 名古屋工業大学（修士） 大阪市立大学（修士） 北九州市立大学（博士） プタペスト工科大学（修士） メルボルン大学（修士） 中国同済大学

### 3. 就職に関するコースの方針

(1) 民間会社への大学推薦は同時に2社以上は行いません。

公募（自由応募で受験し、推薦書を必要としないもの）で受験する場合、原則として推薦書の作成は行いません。公募と大学推薦との併願は可能ですが、双方とも合格した場合は、大学推薦の会社に行くようにして下さい。したがって、公募で入社試験を受け、同時に大学推薦も受けようとする場合は、この点に十分留意して受験および大学推薦を受けて下さい。

大学推薦とは、大学（コース）と相手方（会社）との信頼関係のもとに成立するシステムであり、信頼関係あつての推薦であり、推薦あつての信頼関係であることを十分認識して、分別のある行動と判断をお願いします。

(2) 民間会社と公務員（国家・独立行政法人・県・市）の併願について

民間会社と公務員の併願を認めない民間会社がありますので、募集要項に記入された事項に注意して下さい。既に公務員試験を受けたか、あるいは受ける可能性がある場合でも、会社面接時に、その旨伝えて下さい。また、公務員との併願については、就職担当主任教授および卒論指導教員に予め相談しておいて下さい。過去の例で最も多いトラブルがこの公務員との併願に関するものです。

公務員を絶対希望する学生が民間会社も受験する場合、一般的には公募形式で複数受験することが好ましいと言えます。公務員を希望する学生が、推薦で民間会社を受験することは、民間会社のみを希望する学生の選択肢を減らしていることに充分留意して欲しいと思います。いずれにしても、公務員を絶対希望する学生は、予め指導教員と十分な打ち合わせを行い、かつ周到な準備をして下さい。

(3) 学部学生と大学院生が同時に希望した場合

大学院生を優先します。

(4) 就職ガイダンスなどの就職情報の提供

理工学部4号館（都市北棟）の2階及び就職対策室に掲示していますので利用して下さい。就職対策室は、理工学部2号館中棟1階の都市図書室に併設しています。就職関係の各種資料を揃えていますので、2年生・3年生も気軽に利用して下さい。またメールによる配信も行ないます。

(5) 大学学生センター内のキャリアセンターの有効活用

全学の学生を対象にエントリーシートや履歴書の添削指導、面接試験対策など行っています。積極的に利用してください。

(6) 平成31(2019)年度の推薦希望・申し込みは三島伸雄教授まで。

## 4. 各種資格・免許について

各企業・団体等とも優秀な人材を確保するために、面接や筆記試験を複数行うなど、簡単には採用が決まらないシステムをとる傾向にあります。また、終身雇用の概念が薄れてきているため、卒業後何年か後に転職をするというケースも稀（まれ）ではなくなってきています。そのようなときに、資格や免許は、自己の「職能」をアピールすることができます。「卒業するまでに資格を取得する」、あるいは「卒業後の資格取得が容易になる履修計画を立てておく」ことを強く奨めます。

ここでは、大学在学中、または卒業後に取得できる資格・免許について、簡単に説明します。さらに詳しいことは、資格・免許を授与する団体・協会等のホームページを参照するようにしてください。

### ■大学在学中に受験できる資格など

#### 技術士補

建設業界における第一級の資格である「技術士」の前段の資格です。この技術士補を取得しさらに4年（大学院卒業の場合は2年）の実務経験を経れば技術士の受験資格を得ることが出来ます。技術士補の受験資格には制限が無く、学部の学生でも受験できます。合格しておけば、就職活動において大変有利だと考えられます。（詳しくは<http://www.engineer.or.jp/>）

#### TOEIC など

在学中に英語の公開テストを受験して高いスコアを得ておくことも、就職活動、あるいは将来のステップアップに有効です（「Ⅱ、学習」の外国語科目の欄も参照してください）。TOEICは英語コミュニケーション能力を測るテストです。企業によってはTOEICのスコアで海外勤務の条件を設けている場合もあります。（詳しくは<http://www.toeic.or.jp/>）

### ■所定の単位を修得すれば大学卒業時に得られる免許

#### 工業高校1種普通免許状

都市工学科の学生は教員免許状（工業）一定の要件を満たすことで取得することができます。詳細は「理工学部で何を学ぶか」等を参照してください。

### ■所定の単位を修得すれば、卒業時または卒業後実務経験を経て申請により得られる資格

**測量士補** 平成25(2013)年度以降の入学生で、測量に関する科目（測量学を含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者。

平成21年度以降の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及び測量学実習Ⅰを含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者。

平成20年度以前の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及びⅡ、測量学実習Ⅰ及びⅡ<sup>\*註</sup>）を修め、大学を卒業した者。

**測量士** 平成25年度以降の入学生で、測量に関する科目（測量学を含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者で、測量に関して1年（実質365日）以上の実務経験を有する者。

平成21～24年度の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及び測量学実習Ⅰを含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者で、測量に関して1年（実質365日）以上の実務経験を有する者。

平成20年度以前の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及びⅡ、測量学実習Ⅰ及びⅡ<sup>\*註</sup>）を修め、大学を卒業した者で、測量に関して1年（実質365日）以上の実務経験を有する者。

表 4-3 測量に関する科目（平成 25(2013)年度入学生以降）

科目	単位	区分	科目	単位	区分
微分積分演習Ⅰ	2	専門基礎科目 (必修)	構造力学演習Ⅱ	2	専門科目 (選択)
線形代数演習	2		地盤工学実験演習	2	
微分積分演習Ⅱ	2		水工水理学	2	
力学演習	2		構造解析学	2	
構造力学演習Ⅰ	2		都市解析演習	2	
都市工学概論	2		都市防災工学	2	
図学	2		鉄筋コンクリート構造	2	
水理学	2	専門科目 (必修)	地盤工学	2	
土質力学	2		水工学実験演習	2	
都市工学ユニット演習 (都市環境基盤)	4	専門科目 (選択)	環境衛生工学	2	
測量学	2		環境生態工学	2	
測量学実習	1		コンクリート構造工学	2	
統計数理	2		都市・地域環境計画	2	
工業数学	2		都市交通工学	2	
基礎設計製図演習	2		流域水工学	2	
			地震工学	2	

\*平成 25(2013)年度以降の入学生は、「測量学実習」は測量士資格取得上必修ではないが、履修が望ましい。

なお、上記の測量士補、測量士の免許取得申請のために必要な書類は

(イ) 卒業証明書 (ロ) 成績証明書 (ハ) 登録申請用紙 である。

書類については、(イ)・(ロ)は大学へ、(ハ)は日本測量協会へ申し込み、入手する事。

申請先は、国土交通省・国土地理院（電話 0298-64-1111）。（詳しくは <http://www.gsi.go.jp/>）

## ■大学卒業後すぐに受験できる資格

### 二級建築士

平成 21 年度以降の入学生で、建築士受験指定科目の二級建築士単位要件をを満たした者

平成 20 年度以前の入学生で都市工学科の建築・都市デザインコースを卒業した者  
(建築技術教育普及センターHP: <http://www.jaeic.or.jp/>)

### 土木学会 2 級技術者

都市工学科を卒業した者。

(土木学会技術推進機構 HP: <http://www.jsce.or.jp/opcet/>)

## ■大学卒業後実務経験を経て受験できる資格

### 二級土木施工管理技士

都市工学科を卒業後 1 年間の実務経験を有する者

### 一級土木施工管理技士

都市工学科を卒業後 3 年間の実務経験を有する者

### 二級建築士

平成 21 年度以降の入学生で、建築士受験指定科目の二級建築士単位要件を満たし、1 年または 2 年以上の建築実務経験を有する者 (別紙参照)

平成 20 年度以前の入学生で、都市工学科を卒業 (建築・都市デザインコースを卒業した者を除く) 後、1 年以上の実務経験を有する者

### 一級建築士

平成 21 年度以降の入学生で、建築士受験指定科目の一級建築士単位要件を満たし、2 年以上の建築の実務経験を有する者 (別紙参照)

平成 20 年度以前の入学生で、都市工学科を卒業後 2 年以上の実務経験を有する者

### 技術士

技術士補の試験に合格した後実務経験を有する者

ただし、実務経験には、大学院修士課程における修学年数も算入できます。

※このほか、都市工学科を卒業すれば、コンクリート技士・コンクリート主任技士・管工事管理技士・ダム管理主任技士などの資格試験において、必要実務経験年数の短縮を受けられます。

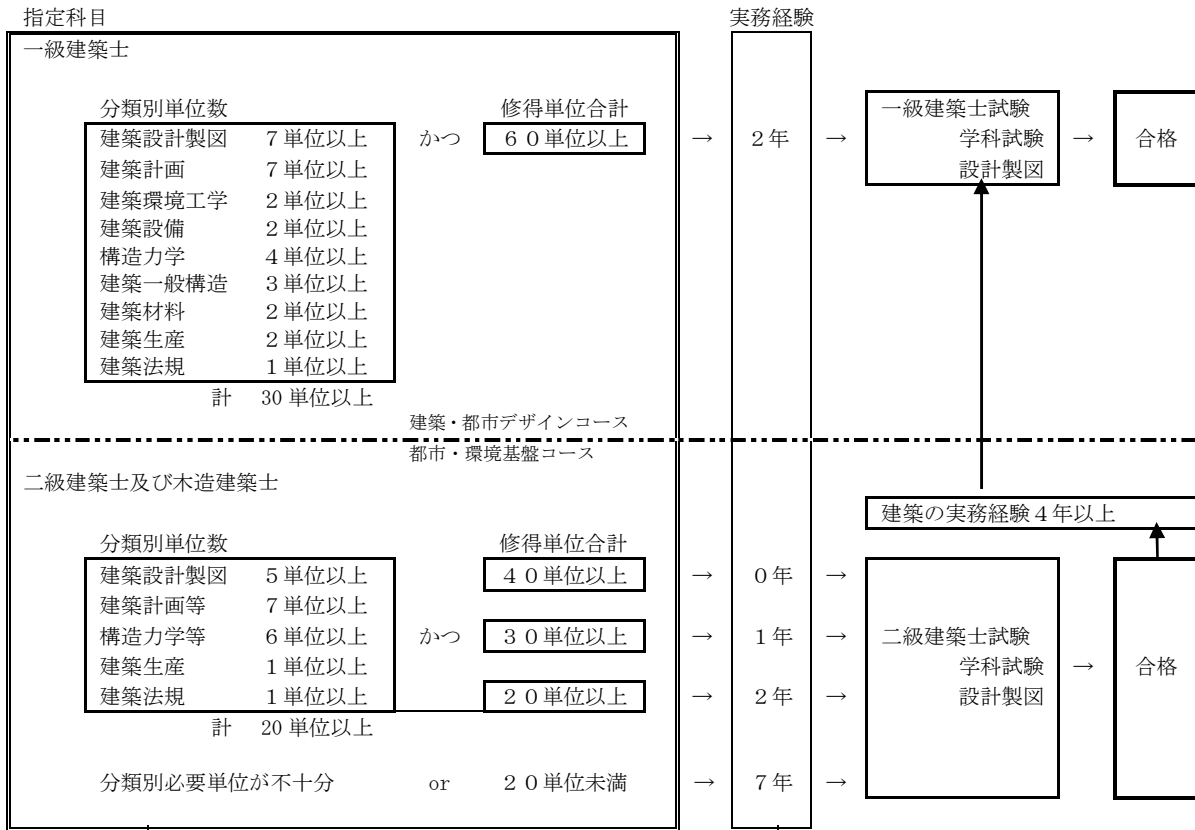


表 4-4 建築士試験指定科目（平成 25(2013)年度入学生以降）

建築士試験の種類：一級建築士試験／二級・木造建築士試験

指定科目の分類（必要単位数）		開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計製図 実務 0～2年 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	基礎設計製図演習	2	選択	2
		建築都市デザイン演習Ⅰ	2	選択	3
		建築都市デザイン演習Ⅱ	3	選択	3
		都市工学ユニット演習(建築)	3	選択	4
			小計		12
②～④ 建築計画、 建築環境工学 又は建築設備 実務 0～2年 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	アーバンデザイン	2	必修	2
		現代建築概論	2	必修	2
		居住環境計画	2	選択	2
		地域施設計画	3	選択	2
		建築空間史Ⅰ	2	選択	2
		建築空間史Ⅱ	3	選択	2
		建築デザイン手法	4	選択	2
		小計		14	
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境デザイン学	2	必修	2
		建築環境工学Ⅰ	2	選択	2
		建築環境工学演習Ⅰ	3	選択	2
		小計		6	
	④建築設備 (2単位以上)	建築環境工学Ⅱ	3	選択	2
		建築環境工学演習Ⅱ	3	選択	2
			小計		4
⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構造 又は建築材料 実務 0～2年 (6単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	構造力学演習Ⅰ	1	必修	2
		構造力学演習Ⅱ	2	選択	2
		土質力学	2	必修	2
		構造解析学	2	選択	2
		地震工学	3	選択	2
		小計		10	
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	鉄筋コンクリート構造	2	選択	2
		鉄筋コンクリート工学	2	選択	2
		鉄筋コンクリート構造設計	3	選択	2
		コンクリート構造工学	3	選択	2
		鉄骨構造学	3	選択	2
		小計		10	
	⑦建築材料 (2単位以上)	建設材料学	2	選択	2
		構造・材料実験演習	3	選択	2
			小計		4
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	計画システム分析	2	選択	2
		建設施工・維持管理学	3	選択	2
			小計		4
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法制度とデザイン	3	選択	2
			小計		2
20単位以上	30単位以上	合計			66
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	力学演習	1	必修	2
		測量学	1	選択	2
		測量学実習	1	選択	1
		都市計画	2	選択	2
		技術者倫理	3	選択	2
			小計		9
実務 0年 40単位以上	実務 2年 60単位以上	合計			75
実務 1年 30単位以上					
実務 2年 20単位以上					

建築士合格まで  
佐賀大学工学部都市工学科（平成 21 年度入学生以降）



選択科目＝基本的には自主性にゆだねられる  
ただし、コースによって卒業要件が異なり、  
それぞれのコース科目の修得が必要

都市・環境基盤コースにおいて  
二級建築士受験に向けて 20～40 単位は可能

指定科目の詳細：前ページ参照

建築設計事務所  
構造設計事務所  
設備設計事務所  
建設会社、ハウスメーカー  
建築行政 など  
佐賀大学大学院都市工学専攻  
1 年の実務経験  
(要インターンシップ)

- 受験に必要な書類：
- ①卒業証明書
  - ②指定科目修得証明書
  - ③実務経験証明書  
(大学院の場合は、単位修得証明書)

## 5. 大学評価・学位授与機構について

### ■在学年限について

佐賀大学学則第 16 条により、大学における修業年限は 4 年と定められています。修得単位が不足して留年などで遅れた場合、大学に留まることのできるトータルの年数(在学年限)は 8 年までとなっています。ただし、これらの年数は 1 年生より入学した一般の学生の場合であり、転入学、編入学、再入学などによって入学した学生の在学年限は、それぞれの定められた在学すべき年数の 2 倍までです。

### ■大学評価・学位授与機構

上記の在学年限を過ぎたことにより大学を卒業できなくなった学生に対して、学士の学位を取れる道が残されています。

これは、学校教育法第 6 8 条の 2 第 3 項第 1 号に基づく学士の学位の授与制度であり、短期大学や高等専門学校卒業者、大学に 2 年以上在学し 62 単位以上を修得した者などが、大学の科目等履修生として単位を修得するなどの方法により一定の学修を積み上げた場合、大学評価・学位授与機構が行う審査によって学士の学位を取得できる途を開いたものです。

具体的には、大学に 2 年以上在学し 62 単位以上を修得した学生で、在学年限を過ぎた場合は、在学期間を含めて 4 年以上にわたり上記の単位を含めて 124 単位以上の単位を科目等履修生などの制度を用いて履修し、なおかつ学修成果(専攻に係る特定のテーマについての学修の成果)をレポートとして作成した場合に、大学評価・学位授与機構へ学士の学位授与の申請をすることができます。

なお、詳しい資料の請求先は下記の通りです。

大学評価・学位授与機構 管理部 学位審査課

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

電話 03-3942-2355

HP: <http://www.niad.ac.jp/>

## 6. 学生生活に関する Q & A

<b>授業料未納</b>
Q：授業料を納めないと、どういう処分を受けますか？ A：授業料は、納付期間が前学期 4 月 1 日～4 月 30 日、後学期 10 月 1 日～10 月 31 日と定められています。納入しないと除籍となり、学生としての身分が消滅します。 詳しくは、佐賀大学学生センターHP アドレス： <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</a>
<b>授業料免除</b>
Q：授業料の免除、徴収猶予、分納を希望したいのですが、どういう手続きが必要ですか？ A：佐賀大学 HP の授業料免除のページに申請書類があります。前学期分は 1 月中旬、後期分は 7 月下旬に書類を印刷し、その書類に記入し、市町村の所得証明書（本人を含む 16 歳以上の同一生計家族全員分）等必要書類を付けて、前学期分は 4 月上旬、後学期分は 9 月初旬に申請会場に提出して下さい。 詳しくは、佐賀大学学生センターHP アドレス： <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</a>
<b>奨学金</b>
Q：日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けたいのですが、どういう手続きが必要ですか。 A：学生生活課（学生センター南側 1 階）に申請書類があります。それに記入し、それと保護者の給与所得の源泉徴収票または市町村の収入証明を付けて前学期 4 月、後学期 10 月（2 年次以上は 4 月の 1 回のみ）の所定の期日までに学生生活課に提出すると、審査のうえ貸与されることがあります。詳しくは、 <a href="http://www.jasso.go.jp/saiyou/daigaku.html">http://www.jasso.go.jp/saiyou/daigaku.html</a> に掲載されています。 貸与金額・月額 第一種奨学金（無利息） ①自宅通学者：45,000 円（最高月額）、30,000 円、20,000 円 ②自宅外通学者：51,000 円（最高月額）、40,000 円、30,000 円、20,000 円 ※最高月額は家計支持者の収入等により選択の可否が変わります。 第二種奨学金（有利息） 20,000 円から 120,000 円までの 1 万円単位の金額  Q：日本学生支援機構の奨学金のほかにも貸与される奨学金がありますか。 A：地方団体等の奨学金などがあります。団体により出願資格、貸与金額、申込方法が違います。自分の出身の県や市町村が母体となっている奨学制度の有無を学生生活課で調べてみてください。貸与金額は年度ごとに更新される場合もあり、また、申し込み期限は大抵 4 月中旬から 5 月上旬までです。早めに学生生活課に問い合わせてください。 詳しくは、佐賀大学学生センターHP アドレス： <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</a>
<b>保険</b>
Q：大学での活動中に傷害を受けた場合に備えて、保険に入る方が良いですか？ A：佐賀大学では、学生の皆さんが卒業するまでの期間、大学が保険料を負担し「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入しています。教育研究活動中（正課中、学校行事中、課外活動中及び学内施設内）及び通学途中の不慮の災害事故によって傷害を受けた場合については、保険金が支給されます。 傷害を受けた場合には、学生生活課で手続きをしてください。  Q：他人に怪我をさせたり、器具を破損させた場合に備えて、保険に入る方がよいですか？ A：佐賀大学で上記の「学生教育研究災害傷害保険」に加入していますので、「学研災付帯賠償責任保険」に加入することができます。A コースは 1 年間 340 円（B コースを含む）、B コースは 1 年間 210 円です。詳細は、学生生活課に問い合わせてください。また、加入申込書を学生生活課で受け取り、郵便局で振り込みをしてください。 国内外において、正課・学校行事、課外活動又はその往復により、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したこと等により、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について保険金が支払われます。

<p>Q：インターンシップを受けたいのですが、保険に入る必要がありますか？</p> <p>A：インターンシップ期間中の事故や企業の備品を壊してしまったりした時に保障されますので、賠償責任保険の加入をお願いします。</p> <p>佐賀大学で「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入していますので、「学研災付帯賠償責任保険」に加入することができます。Aコースは1年間340円（Bコースを含む）、Bコースは1年間210円です。詳細は、学生生活課に問い合わせてください。また、加入申込書を学生生活課で受け取り、郵便局で振り込みをしてください。</p>
<p>後援会</p>
<p>Q：後援会費とは何ですか？</p> <p>A：学生生活に必要な経費として入学時に後援会費（24,000円）を徴収しています。これは学生諸君の研修旅行の旅費、卒業式パーティー、就職斡旋のための教員旅費などの一部として使われるもので、必ず収めなければなりません。未だ収めていない人は、早急に工学系研究科総務係（理工学部1号館1階）に払い込んで下さい。</p>

<p>同窓会</p>
<p>Q：同窓会について教えてください。</p> <p>A：都市工学科の卒業生が入会している同窓会には、理工学部同窓会（菱実会）と都市工学科同窓会（楠志会）の二つがあります。</p> <p>理工学部同窓会は、佐賀大学同窓会 HP <a href="http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/">http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/</a> を参照して下さい。</p> <p>都市工学科同窓会については、楠志会事務局（0952-28-8194）まで問い合わせてください。</p>
<p>健康診断</p>
<p>Q：健康診断はいつ、どこで行われるのですか。</p> <p>A：定期健康診断：毎年1回（3月-4月） 全学生対象</p> <p>特殊健康診断：電離放射線健康診断・じん肺健康診断・薬品を使用する学生の健康診断</p> <p>場所：保健管理センター</p> <p>健康診断を受けないと、奨学金・就職出願等に必要な健康診断証明書が発行されません。</p>
<p>身体と精神の診察</p>
<p>Q：最近、体調がすぐれないのですが、診察してくれる所はありますか。</p> <p>A：保健管理センターが事務局の北側にあります。ここでは、内科医や精神科医、看護師、保健師がいて、身体的な診察はもとより、対人関係や修学上の問題など心理的、精神的健康についても相談に応じてくれます。もちろん無料です。大いに利用して下さい。</p> <p>詳しくは、佐賀大学保健管理センターHPアドレス：<a href="http://www.suhcc.saga-u.ac.jp/">http://www.suhcc.saga-u.ac.jp/</a></p>
<p>附属図書館と学科図書室</p>
<p>Q：本を読んだり借りたりしたいのですが？</p> <p>A：附属図書館：大学キャンパスの中央に4階建ての図書館があります。</p> <p>開館時間は、平日8:40～20:00（試験期8:40～21:00）、土日祝日10:00～19:00です。休館日は、開学記念日、年末年始、毎月第4木曜日（9月の試験期を除く）です。詳しくは、佐賀大学附属図書館 HP アドレス：<a href="http://www.lib.saga-u.ac.jp/">http://www.lib.saga-u.ac.jp/</a></p> <p>学科図書室：理工2号館別棟（都市工学科中棟）1階の都市工学科図書室に専門科目に関する雑誌や参考書を揃えています。自由に閲覧して下さい。</p> <p>なお、学科の図書や雑誌の貸出しは禁止です。コピーが必要な学生は、貸出し簿に記入の上コピー室でコピーして下さい。大学での学業を充実させるため、附属図書館や学科図書室を大いに利用して下さい。</p>
<p>コンピュータとネットワーク</p>
<p>Q：パソコンを利用できる場所と方法を教えてください。</p> <p>A：大学内でのネットワークの利用については、ID番号（みなさんの学籍番号と同じ番号です）とパスワード（初期パスワードは学生証に印字されていますが、直ちにパスワード変更処理を行ってください）が必要です。詳しくは、1年前期開講の情報基礎概論の講義で説明がなされます。パソコンの利用については、以下の3つの方法があります。</p>

- ・ 附属図書館または総合情報基盤センター演習室のパソコン  
附属図書館は開館時間中、学術情報センター演習室は 20 時までの講義がない時間帯に自由に利用することができます。
- ・ 教室有線 LAN  
都市 I 番教室、II 番教室の各机には、電源と有線 LAN ソケットが備え付けてあります。ノート PC を持ちこめば、講義がない時間帯に自由に利用することができます。
- ・ 無線 LAN  
学内の無線 LAN アクセスポイント（教育用として開放されているもの）は自由に利用できます。

**夏季実習**

- Q：職場体験などができる現場実習（インターンシップ）などがありますか？  
 A：3 年生のうち、希望者があれば、おもに公官庁や公団などの現場事務所や工事現場で約 1 ヶ月の夏休み実習を行うことができます。この場合、実習生の受け入れ機関との調整は都市工学科が行います。詳細は担当教員に問い合わせして下さい。

**構内交通規定**

- Q：自動車で通学したいのですが、校内交通規定があると聞いています。自動車通学許可の手続きや規制の内容について教えてください。  
 A：本学には「佐賀大学本庄地区構内交通規定」があり、車両の入・退構、駐車は厳しく制限されています。入構・駐車できる自動車は登録者に限られます。登録できるのは、本学が定めた条件に適合する学生（通学時間 120 分以上の者）のみであり、詳細については 1 月に掲示されるので、それに従って所定の手続きを行い、登録票及びパスカード（4,500 円）の交付を受けて下さい。ただし、登録票の有効期間は 1 年ですから、毎年度更新手続きが必要です。又、車を変更する場合も更新しなければなりません。

**その他の交通規制**

1. 自動車・自動二輪車・自転車いずれも所定の駐車場以外には駐車してはならない。
2. 入・退構経路及び駐車場は次の通りである。

		経路	駐車場
理工学部生	自動車	南部バイパス入口	都市南棟（理工 3 号館）南側 理工学部 2 号館・3 号館東側駐車場 理工学部 6 号館・7 号館西側駐車場 イノベーション・ラボ西側駐車場 および東側駐車場
	自動二輪車	南部バイパス入口	理工学部実習工場西側二輪車置場

3. 本部前道路及び蓮池西側（農学部と本部の間）は自転車を除いて、原則、通行禁止である。
4. 構内での最高速度は 20 km/h なので厳守すること。

**※注意！**

上記の規制に違反した場合は、登録を取り消すなどの処置が取られます。また、未登録車の駐車は厳しくチェックされ、車の所有者を調査した後、処分を受けることになります。

**ライブキャンパス LiveCampus**

- Q：ライブキャンパス LiveCampus というシステムがあると聞きました。何ができるのか教えてください。  
 A：学生が履修登録をしたり、成績表や時間割を確認したりするためのシステムです。学外からも、学籍番号とパスワードを用いて扱うことができます。その他、先生からの連絡を受けたり、学習状況を記録していくためのラーニング・ポートフォリオというシステムや、授業評価アンケートもライブキャンパスから入って記入します。